

国際経営論		講義	教授 丸山 高行
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの選択必修科目、経営・経済コースの専門選択科目	科目ナンバリング	23102202

1. 授業のねらい・概要

インターネットの普及や諸外国との人材交流が加速化する現在、企業経営の国際化が急ピッチで進行している。一方で、今回の新型コロナウィルスの世界的流行は、国際化の方向性そのものにも、大きな変革を迫る可能性がある。授業では、企業経営面で何らかの形で世界とつながっている企業を広く「グローバル企業」ととらえ、グローバル企業を経営する上で必要となる基礎理論を、わかりやすく体系立てて学ぶことを目標とする。

2. 授業の進め方

毎回の授業は、レジュメ、課題、課題解説動画をオンライン配信することにより行う。具体的には、授業開始時刻に合わせ、Google Classroomにレジュメとレジュメに関連する課題（選択形式で3問程度）を公開する。受講者は、レジュメを熟読するとともに、関連知識を整理した上で、課題の回答をGoogle Classroomにインプットする。一定期間（3日間を予定）経過後、課題の解説動画をGoogle Classroomに配信する。解説動画は、20分～30分程度を予定している。

3. 授業計画

1. イントロダクション	9. 資本コストとROE
2. グローバル企業の定義と基本型	10. 財務戦略の国際化
3. グローバル企業の経営活動と国際収支	11. 国際分散投資の基礎理論
4. グローバル企業の経営組織・経営戦略	12. グローバル企業の企業価値評価
5. 国際経営における為替の影響力	13. わが国企業による海外M&A（現状分析）
6. 為替レートの決定要因と為替ヘッジ	14. わが国企業による海外M&A（意思決定プロセス）
7. 海外現地生産の現状と課題	15. 全体のまとめ（グローバル企業のリスク管理）
8. 投資意思決定のメカニズム	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

レジュメは、1回の授業につき、パワーポイントのスライド12枚が提供される（国際経営論全体で180枚）。スライド12枚は、毎回の授業テーマに沿った図表と、図表に関する解説文から構成される。さらに、レジュメには、関連する資料や参考文献へのリンクが貼ってある。受講者は、レジュメの内容を理解し、関連資料や参考文献にもアクセスして必要知識を整理した上で、課題にチャレンジすることになるが、正解を導くためには、最低1時間の学修が必要である。また、課題解説動画の視聴を中心に、毎回、1時間程度の復習を行うことが望ましい。なお、前年度のレジュメ、課題（前年度は12回分）を授業スタート時にGoogle Classroomで公開するので、適宜、予習に役立ててほしい。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題については、上記の通り、Google Classroomに解説動画を配信する。期末試験は、課題（選択形式で3問程度）にレポートの提出を加える形で行う。期末試験についても、終了後、解説動画を配信するので、解答が不十分だったところは直ちに復習しておくこと。

6. 授業における学修の到達目標

国際経営論の基礎が、論理的かつ体系的に身につくことを目標とする。また、世界的に有名な大企業だけでなく、地方の特色ある中小企業の国際化にも焦点を当てて行くので、関心のある業界や企業について、より深く研究しようという意欲が高まることを期待する。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢（20%）および定期試験の結果（80%）によって、評価する。

8. テキスト・参考文献

毎回の授業で提示するレジュメが、テキストとなる。また、レジュメの中で、適宜参考文献を紹介する。

9. 受講上の留意事項

基本的に経営学基礎で学んだ知識を前提に授業を進めるので、しっかり復習しておくこと。また、経営組織論と経営戦略論は特に国際経営論と関係が深いので、できれば本授業とあわせて受講することが望ましい。さらに、国際金融論、コーポレート・ファイナンス論、証券投資論の知識と組み合わせれば、本授業の理解が深まるとされる。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、金融機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。